

・懇談会等【共益事業】

(1) 会員懇談会

会員懇談会は、全会員を対象に、大臣や閣僚、国内外の各界有識者等を来賓として招き、時宜にあった話題に関する講演会と意見交換を行っている。本年度はいずれの会合についてもマスコミに公開した。

第1回は5月22日にマーティン・ニューマン スタンドコンサルティング パーソナル・インパクトコーチを迎え、「パーソナルインパクト～リーダーシップに必要な自己表現とコミュニケーション能力」をテーマに開催した。ニューマン氏は、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致のプレゼンテーションコーチとして活躍され、東京招致を成功させた影の立役者と言われている。会合では、招致活動を成功に導いたエピソードをはじめ、日本人に求められるプレゼンテーション能力やトレーニングの方法等について講演いただいた。

第2回は6月23日に黒田東彦 日本銀行 総裁を迎え、「2%の『物価安定の目標』の早期実現と、日本経済の持続的な成長に向けて」をテーマに、最近の金融経済情勢や経済運営について講演いただいた。日本銀行は2013年1月に、消費者物価の前年比上昇率2%を「物価安定の目標」として掲げ、同年4月に、これを2年程度の期間を念頭にできるだけ早期に実現するため、「量的・質的金融緩和」を導入した。講演では、この「量的・質的金融緩和」政策の導入により、設備投資を含めた国内需要が堅調に推移しており、今後も、「物価安定の目標」達成に向け、「量的・質的金融緩和」を着実に推進していく考えを表明した。

第3回は11月7日にイリナ・ボコバ 国際連合教育科学文化機関(UNESCO)事務局長を迎え、「ユネスコのソフトパワーアジェンダ～持続可能な繁栄と平和に向けた連携」をテーマに講演いただいた。貧困、疾病等の課題を解決していくには、新たな思想を持ち、持続可能な開発を各国政府とともに考え、あらゆる知識と経験を動員することの重要性を訴えた。また、官民連携に必要なポイントとして、共通の価値観と目標の設定、アイデアと専門知識の提供、現場での具体的な成果、事業に対する独創性の4点を示した。

第4回はアントニー・J・ブリンケン アメリカ合衆国 国務副長官が訪日した機会を捉え、2月13日に「アジア太平洋地域における米国の経済政策」をテーマに開催した。ブリンケン国務副長官は、かねてより、国家安全保障政策について、オバマ大統領を支えてきた側近と言われており、2014年12月の副長官就任後、初めての海外訪問としてアジアを歴訪、その最後の訪問国が日本であり、本会での会合はアジア歴訪中、唯一の公式講演であった。ブリンケン副長官から、リバ

ランス政策を進めるために必要なこととして、アジア太平洋地域の安全保障に対する関与を強めることや、経済関係を強化していくこと等が挙げられた。また、TPP については、公正な競争の場を参加国に作り、新しい市場を開放する、との観点から、日米の TPP 交渉を 2015 年度の重要なものと位置づけ、早期の妥結に期待を表明した。

毎年恒例となっている同友クラブと合同の「新年会員懇談会」は、2020 年パラリンピック東京大会開催に焦点を充て、1 月 15 日に開催した。来賓には、山脇康 日本パラリンピック委員会委員長、ならびに河合純一 日本パラリンピアンズ協会会長を招聘した。山脇委員長からは「2020 年東京パラリンピック大会開催に向けて」をテーマに、パラリンピック大会の歴史、2020 年の東京大会に向けた選手や指導者育成の強化策、障害者スポーツに対する国民の意識変革への期待、企業支援の現状などについて講演いただいた。河合会長からは「日本のパラリンピック選手強化の現状と課題」をテーマに講演いただき、自身の競技経験をもとに、高額な費用、不十分な練習施設、コーチ指導者の不足など、パラリンピック選手が感じる競技活動上の課題を指摘した。また、パラリンピックで勝つために必要なこととして、オリンピック選手同様の活動拠点の強化、オリンピック選手に対する競技指導のノウハウの活用、医科学支援の構築、の 3 点を示した。

講演の後には懇談会を開催し、山脇委員長、河合会長の他に、来賓として招聘した 6 名のパラリンピック選手を囲んで参加者と交流を深めた。

(2) 会員セミナー

全会員を対象とした情報提供の場である会員セミナー（岩田喜美枝委員長・立石文雄委員長）では、テーマ及び講師を含めた運営方針について、6 月と 1 月に運営委員会を開催して協議した。その結果、多様な会員ニーズに応えることができるよう、経済、政治、国際・外交問題、教育、医学、先端技術等、幅広いジャンルから時宜にかなったテーマを選定し、第一線で活躍している講師を招聘した。

本年度は、昨年度に引き続き安倍首相が掲げるアベノミクスの「三本の矢」に絡め、日本経済の展望、アベノミクスの評価や課題といった観点から、成長戦略に関するテーマを中心として取り組んだ。また、新進気鋭の若手経営者や研究者、活躍中の女性有識者の招聘も実施した。本年度の前半には、消費者行政、ミドリムシの培養、英語教育改革の課題、3D プリンター、人工知能、サイバー攻撃の脅威等について、専門家の講師を招聘し講演いただいた。年度後半には、健康診断の正しい知識、ジェンダー平等、世界のエネルギー市場等の講演に加え、2012 年 12 月にノーベル生理学・医学賞を受賞された山中伸弥 京都大学 iPS 細胞研究所所長による講演も実施した。

本会合終了後には原則的に、講演録である「会員セミナー通報」を会員専用 WEB サ

イトで配信している。なお、2005年度より実施している同友クラブメンバーへの案内も継続し、広く情報提供に努めた。

(3) 産業懇談会

産業懇談会（稲野和利・杉江和男 代表世話人）は、会員の相互交流、情報交換を目的とし、14グループがそれぞれの世話人および運営委員を中心に、自主的な活動を行っている。（メンバー総数 821 名：3月17日現在）

定例会はグループごとに昼食会形式で開催し、メンバーからの話題提供や、外部講師による講演などを行っている。テーマは政治、経済、文化等多岐に亘り、施設見学、グループ合同の懇談会の開催等、活発な活動を展開している。また毎年恒例の「14グループ合同暑気払い」を7月に開催し、グループの枠を越えたメンバー相互の交流を深めた。

一方で、産業懇談会の世話人を対象とした会合を2回開催した。5月には「代表世話人会」を開催し、2012年度に施行した運営内規の確認とともに、産業懇談会全体のメンバー拡充のため、新入会員および幹事を対象とした「お試し参加キャンペーン」の実施を決定した。7月に開催した「14グループ世話人会」では、各グループの世話人(32名)の参加を得て、自身のグループの特徴的な活動を紹介し、相互に理解を深めた。また、産業懇談会の活動をより多くの会員に知ってもらい、参加を呼びかける新たな企画として、「経済同友」10月号から毎月3グループずつ、活動の紹介文を掲載することを決定、メンバー拡充の試みを行うこととした。さらに、世話人自身が他グループの活動を実際に体験し、グループ運営に活かすことを目的として世話人の他グループへの参加を奨励、2014年10月から3月までの期間に6名の世話人が積極的に参加されている。

グループ毎の活動状況は以下の通りである。

〔第1火曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を2回開催した。例会では、4人のメンバーから自身の経験や所属企業・業界の現状や取り組みについて、また、外部講師からは、日本経済の動向、日本人の価値観・消費行動の変化、ドイツ人の歴史リスクに関する考え方、西洋音楽と日本音楽の差異、およびスポーツを通じた人材育成など幅広いテーマに話題提供・講演をいただいた。また、他グループとの交流を深めるため、「第1水曜グループ」・「第1木曜グループ」との合同懇談会を開催した。運営委員会は、6月は世話人の任期満了による後任人事について、12月は、活動状況を踏まえた上で、次年度以降の講演テーマや話題提供候補者等について討議・決定した。

〔第1水曜グループ〕

例会を9回（見学会1回を含む）開催した。例会では、メンバーから所属する業界の現状やグローバル戦略などについて、また外部講師には、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致、日本の外交戦略などをテーマに話題提供・講演をいただいた。また、東京駅・東京ステーションホテル見学会を実施した。さらにグループメンバーの懇談と他グループとの交流を深めるため、「第1火曜グループ」・「第1木曜グループ」と合同で懇談会を開催した。

〔第1木曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を2回開催した。例会では、メンバー自身の事業の紹介や業界の動向・課題などについて、外部講師からは、サイバニクス技術やゲノム、脳科学、農業、エネルギーと経済、中小企業の経営などをテーマに、話題提供・講演をいただいた。また、ANA機体工場の見学会を開催し、知見を深め、見学会後の懇談会ではメンバー同士の親睦を深めた。さらに、他グループとの交流を深めるため、「第1火曜グループ」・「第1水曜グループ」との合同懇談会を開催した。運営委員会は、9月は下期の活動について、2月は一年間の活動、次年度の運営体制等について討議・決定した。

〔第2火曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバー自身の事業や業界の動向について、また外部講師からは、歴史、音楽、医療、エネルギー、経済見通しなどをテーマに話題提供・講演をいただいた。見学会では、日本銀行を訪れ、知見を深めた。さらに、メンバー間の交流を目的とした懇談会を開催した。運営委員会は1月に開催、一年間の活動、次年度世話人・運営委員体制等について討議・決定した。

〔第2水曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、新たにグループに参加されたメンバー自身の事業や業界に関して、外部講師には、世界経済と日本経済のゆくえ、伊勢神宮式年遷宮と日本人の感性をテーマに話題提供・講演をいただいた。見学会では、清水建設技術研究所を訪れ、知見を深めた。さらに、他グループとの交流を深めるため、「第2金曜グループ」「第3水曜グループ」との新年合同懇談会を開催した。運営委員会は11月に開催、一年間の活動、次年度世話人・運営委員体制等について討議・決定した。

〔第2木曜グループ〕

例会を11回（見学会1回を含む）、運営委員会を2回開催した。例会では、新たにグループに参加されたメンバーから、スマートデバイス、住宅リフォーム、臨床検査、抗がん剤治療、金融資本市場について、外部講師からは日本の農業、バチカンの本質、日本経済の見通しについて、話題提供・講演を頂いた。また他グループメンバーからも、日本の財政、ダイバーシティについて話題提供を頂いた。見学会では、小石川後楽園を訪れ、水戸徳川家について知見を深めた。運営委員会は、11月は今年度の活動について、3月は次年度の活動および世話人・運営委員体制について討議・決定した。

〔第2金曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバー自身の事業の紹介や取り組みなどについて、また外部講師には、センサー技術の将来、医療機器開発戦略、身体から考えるマネジメント、日本の森林・林業の将来をテーマに話題提供・講演をいただいた。見学会ではパイロットおよびキャビンアテンダントの訓練施設を訪問。さらに他グループとの交流を深めるため「第2水曜グループ」および「第3水曜グループ」との3グループ合同で新年懇談会を開催した。運営委員会は3月に開催、一年間の活動等について討議・決定した。

〔第3火曜グループ〕

例会を10回、運営委員会を2回開催した。例会ではメンバー自身の所属する企業・業界の状況などについて、また外部講師には、産業のイノベーション・中国経済の動向・教育制度改革・環境問題などをテーマに話題提供・講演をいただいた。さらに1月にはメンバー間の交流を目的とした新年懇談会を開催した。運営委員会は、7月は今後の運営について、3月は、次年度の世話人・運営委員の活動体制や講演テーマ等について討議・決定した。

〔第3水曜グループ〕

例会を10回、運営委員会2回を開催した。例会では、メンバーから、自身の所属する企業・業界の状況や動向、技術などについて、また外部講師には、世界経済、外交、マタニティ・ハラスメント、無形世界遺産、教育などをテーマに話題提供・講演をいただいた。さらに羽田クロノゲート及び味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて見学会を開催した。また、他グループとの交流を図るため、「第2水曜グループ」および「第2金曜グループ」との新年合同懇談会を開催した。運営委員会は、5月は本年9月以降の活動について、9月は一年間の活動、次年度活動等について討議・決定した。

〔第3木曜グループ〕

例会を10回、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバーから自身の所属する企業・業界の状況や取り組み・技術の紹介や、世界CEO意識調査に基づく世界と日本の比較と日本企業の展望、地銀再編問題などについて、外部講師からはアベノミクス、法人税改革と国際的課税逃れへの対応、内外景気・金融情勢の展望、地球儀制作についてなど、多岐にわたる内容について話題提供・講演をいただいた。運営委員会は10月に開催、一年間の活動、次年度の活動等について討議・決定した。

〔第4火曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の現状や取り組みについて、また外部講師からは、国際モータースポーツ、講談や日本画といった日本の伝統文化、最先端の再生医療についてなど、幅広いテーマについて話題提供・講演をいただいた。加えて、羽田クロノゲートへの見学会を実施した。また、グループ内の交流を深めるため懇談会を開催した。運営委員会は6月に開催、一年間の活動、今年度運営委員体制等について討議・決定した。

〔第4水曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を1回開催した。例会では、外部講師を中心に、医療関連の技術・政策・産業の動向、事業承継のあり方、日系企業のBOPビジネス、車のエンジン開発における産学連携、テレビと通信を活用した新規事業、新語・流行語の歴史、プロフェッショナル・サービス・ファームの事情と動向、企業の人事施策、スポーツを通じた人材育成等、幅広いテーマについてご講演等をいただいた。さらにメンバー間の交流を目的に見学会(アンダーズ東京)ならびに懇談会を1回開催した。運営委員会12月に開催、一年間の活動の総括を行うとともに次年度活動方針ならびに外部講師候補等について討議・決定した。

〔第4木曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を1回開催した。例会では、新たにグループに参加されたメンバー自身の事業の動向や業界の動向などについて、また外部講師からは、癌と免疫、脳や心の科学と企業経営の関わり、震災から学ぶ防災、インフラ老朽化問題、食と健康、現代社会に活かす論語の精神、中東の政治・社会変動とリスク連鎖など、幅広いテーマについて話題提供・講演をいただいた。また、メンバー間の交流を目的に新年懇談会を開催した。運営委員会は12月に開催、一年間の活動等について討議・決定した。

〔第4金曜グループ〕

例会を9回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。

例会では、メンバー自身の業界動向を中心に、事業の紹介や業界の動向・課題などについて、また外部講師からは、日本の対中戦略、ビッグデータの活用、日本経済の未来に向けた課題・展望、ソーシャルビジネスとしてのバングラデシュ緑豆プロジェクトの紹介などをテーマに話題提供・講演をいただいた。さらに、開業後、間もない虎ノ門ヒルズ見学会を実施し、知見を深めた。また、メンバー間の交流を目的とした忘年懇談会を開催した。運営委員会は2月に開催、一年間の活動を踏まえた上で、次年度に向けた運営委員体制・活動について討議・決定した。

（4）経済懇談会

経済懇談会（飯野健司世話人、深澤祐二世話人）では、1997年の発足以来、企業の第一線の経営者（副社長・専務・常務・執行役クラス）によりメンバーを構成し、経済・経営に関する具体的かつ身近な話題について自主運営による意見交換を行っている。メンバーは多様な業種から構成されており、本年度は23名中7名の新任委員を迎えた。

本年度の活動は、「企業の成長戦略進化への挑戦」をメインテーマに、メンバー各社における取り組み事例の紹介、外部有識者からの問題提起、及び施設見学会を中心に運営した。

具体的な活動としては、2014年8月から2015年3月までに定例会合（原則として毎月2回：朝会形式）を10回、施設見学会を1回開催した。

定例会合では、キッコーマン、ファイザー、JFEホールディングス、丸紅、ボストンコンサルティンググループ、LIXILグループ、経営共創基盤各社の取り組み事例に基づく話題提供および意見交換を行った。

外部有識者のヒアリングでは、竹内弘高 ハーバード大学経営大学院 教授より、ハーバードが再評価する日本企業の強さについて、また、グローバルな経営視点から中西宏明 日立製作所 取締役・代表執行役・執行役会長兼CEOより、日立の考える成長戦略の方向性について、講演と意見交換を行った。

施設見学会では、12月に柏の葉スマートシティを訪問した。本見学会では、環境、新産業、健康等への街全体としての取り組みや柏の葉の歴史を紹介いただいた後、KOIL（柏の葉オープンイノベーションラボ）、柏の葉スマートセンター（地域エネルギーの運用・管理）等の館内施設を視察した。視察後には、活発な意見交換も行った。

最終回では、メンバーの木村尚敬 経営共創基盤 パートナー・マネージングディレクターが本年度の活動の総括を行い、意見交換を行った。

(5) 創発の会

創発の会(早川洋座長)は、本会入会2年以内の会員をメンバーとし、委員会活動への本格的参画のためのファースト・ステップとなる場を提供している。

具体的には、メンバーと本会幹部会員との忌憚のない意見交換を通じて、本会の理念、先達経営者の気概を伝承するとともに、メンバーからの率直な意見による幹部会員への接触を図るなど、本会活動の活性化を目的としている。

会合は原則として毎月1回夕刻より、講演会と懇談会(ドリンクパーティ)の2部構成で開催している。(メンバー総数252名)。

今年度は7月に正副座長会議を開催し、経済同友会の基本方針に基づき、創発の会が果たすべき役割について認識の共有を図った上で、今年度の活動と運営内容について討議した。

前期(第1回~第4回会合)は、長谷川閑史 代表幹事より「日本経済の課題と同友会の活動」、前原金一 副代表幹事・専務理事より「第29回夏季セミナー報告」および「貞観政要に学ぶリーダーシップ」、御立尚資 副代表幹事/医療・福祉改革委員長より「医療・福祉改革委員会の活動について」、野路國夫 副代表幹事/科学技術・イノベーション委員長より「コマツのものづくり」をテーマとした講演の後、意見交換を行った。

また、後期(第5回~第8回会合)は、志賀俊之 副代表幹事/アジア委員長より「企業提携の新しい形 ルノー・日産アライアンスが目指すもの」、橘・フクシマ・咲江 副代表幹事/新しい働き方委員長より「新しい働き方：企業の競争力強化のためのダイバーシティと人財戦略」、富山和彦 副代表幹事/改革推進プラットフォーム 事務局局長より「改革推進プラットフォームについて」、橋本孝之委員長より「社会保障改革委員会の活動について」と題して講演を行い、意見交換を行った。

「創発の会」恒例の「グループ・ディスカッション」は、今年度4回実施し、講演の後、講師から提示された討議テーマに沿って各グループで活発な討議が行われ、グループの代表者による発表を行った。

2015年3月には創発の会の設立趣旨の通り、活動期間が満2年を経過したメンバー53名の修了式を行った。

(6) リーダーシップ・プログラム

リーダーシップ・プログラム(長谷川閑史委員長)は、幅広い視野を有し社会のリーダーとしても活躍し得る次世代の経営者育成を目的としており、会員所属企業の本会未入会の若手役員(主に取締役、執行役員クラス)を対象に実施している共益事業活動である。2003年度から開始し今年度で第11期目を迎えるが、昨年度までに合計

233名が本プログラムを卒業し、59名が本会へ入会している。

今年度は24名のメンバーが、2014年7月～2015年2月の間に10回の会合と2回の合宿を行い、優れた経営を実践している経営者や様々な分野で活躍されている方の話を伺いながら、「リーダーのあり方」「企業経営論」「人材育成」などについて自由闊達な議論を重ねた。幅広い業種から集まったメンバー同士の交流は、プログラム卒業後のネットワーク形成にも役立っている。

各会合にご来臨頂いた講師の方々（敬称略、開催順、役職は開催当時）

- ・岡崎 哲二 東京大学大学院 経済学研究科教授
- ・藤森 義明 LIXIL グループ 取締役代表執行役社長兼 CEO、
経済同友会 副代表幹事
- ・牛尾 治朗 ウシオ電機 取締役会長、経済同友会 終身幹事
- ・小林 喜光 三菱ケミカルホールディングス取締役社長、
経済同友会 副代表幹事
- ・小林いずみ ANA ホールディングス 取締役
- ・野路 國夫 コマツ 取締役会長、経済同友会 副代表幹事
- ・中西 宏明 日立製作所 代表執行役 執行役会長兼 CEO
- ・大橋 光夫 昭和電工 最高顧問
- ・數土 文夫 東京電力 取締役会長

2回の合宿では「私の考える我が社のダイバシティ促進策」「社長就任演説」と題し個人スピーチを行った。また、各自が実際の経営課題を持ち寄り、グループ討議を実施した。

- ・軽井沢合宿（2014年8月下旬実施）軽井沢万平ホテル
講師：長谷川閑史 武田薬品工業 取締役会長、経済同友会 代表幹事
講師：北城格太郎 日本アイ・ビー・エム 相談役、経済同友会 終身幹事
- ・宮崎合宿（2015年2月下旬実施）フェニックス・シーガイア・リゾート
講師：富山 和彦 経営共創基盤 代表取締役 CEO、経済同友会 副代表幹事
講師：唐池 恒二 九州旅客鉄道 取締役会長
講師：前原 金一 経済同友会 副代表幹事・専務理事

（7）ジュニア・リーダーシップ・プログラム

ジュニア・リーダーシップ・プログラム（北城格太郎委員長）は、2012年度より企業の意思決定ボードのダイバーシティ実現に向けて、性別・年齢・国籍を超えた次期上級幹部を育成することを目的に、会員所属企業から部長職等上級幹部職者を対象に

活動している。

第2期は、2013年10月から2014年7月まで、24名（女性16名、男性8名）が参加した。活動は第1期のテーマを引き継ぎ、主に革新的かつグローバルな経営を実践している経営者の方々の講演を伺った。7月10日の最終会合では、スピーチのほか、リーダーシップに対するグループ討議を行い、「自社の事業部門リーダーへの就任演説」と題して参加者全員が個人スピーチを行い、本プログラムを締めくくった。

第3期の活動は、2014年7月からスタートし、新たな参加者22名（女性15名、男性7名）が参加、2015年3月までに11回の会合を開催した。リーダーシップを発揮して企業変革や新たなビジネスモデル構築に取り組み、グローバルに活躍する企業経営者の方々からの講演を伺うとともに、より多くの時間を意見交換にあてて議論を深めた。

プログラムの中間地点となる2014年11月には中間討議と位置付け、木川眞 ヤマトホールディングス 取締役社長・本会幹事より「クロネコヤマトの満足創造経営 ～経営理念は行動で示す～」と題した基調講演に加え、4グループでの討議ならびに成果発表を行った。グループ討議では、北城委員長、フクシマ副代表幹事、前原副代表幹事・専務理事、木川幹事がアドバイザーとして議論の支援と講評を行った。

第3期の最終回となる2015年3月には、峰岸真澄 リクルートホールディングス 取締役社長・本会幹事より「“変革”の力で新しい価値の創造を」と題した基調講演を伺った。また、「今後の自身のリーダーシップに関するチャレンジ」をテーマとしたグループ討議に加え、「自部門の事業部長に就任した際の決意表明」をテーマとした個人スピーチを行い、本プログラムでの学びを活かした決意表明を行った。